

# YOKOSHIN NEWS

平成25年11月20日  
横浜信用金庫

## 下村観山の作品を採用した平成26年横浜信用金庫カレンダーの 制作について

横浜信用金庫（理事長 斎藤寿臣）では、平成26年横浜信用金庫カレンダーを制作しました。

当金庫は平成20年より横浜美術館の企業連携プログラム「Heart to Art」への協賛を行っており、その一環として横浜美術館の所蔵作品によるカレンダーを平成24年から制作しています。

平成26年は、横浜市ゆかりの画家である下村観山（しもむらかんざん）の作品を採用しました。

### 記

#### 1. 作成部数

1枚ものカレンダー：約40,000部

#### 2. 配布方法

当金庫営業店61店舗にて無料配布

※ただし、なくなり次第配布を終了します。

#### 3. 採用作品

##### 【作家について】

下村観山（しもむらかんざん） 明治6年（1873）～昭和5年（1930）

紀州徳川家に代々仕える能楽師の家に生まれる。幼少期より狩野芳崖（かのうほうがい）や橋本雅邦（はしもとがほう）に師事して狩野派の描法を身につけ、明治22年（1889）に東京美術学校の第一期生として入学。横山大観（よこやまたいかん）や菱田春草（ひしだしゅんそう）らとともに、校長の岡倉天心（おかくらてんしん）の薫陶を受ける。卒業後は同校の助教授となるも、天心を排斥する美術学校騒動を機に辞職。日本美術院の創立に参画し、その後は日本美術院を代表する画家の一人として、新しい絵画の創造に力を尽くした。大正2年（1913）には実業家 原三溪（はらさんけい）の招きにより、横浜の本牧に終の棲家となる居を構えた、横浜ゆかりの画家でもある。

##### 【作品について】

《松二鶴（右隻）》 1927年、絹本着色・6曲一双 177.5×375.0 cm

老いた赤松の大木のもとに、右隻には真鶴一羽とその幼鳥二羽、左隻には真鶴一羽とその幼鳥一羽が憩う様が描かれている。齡千年に達するという鶴は、様々な伝説や故事を持つ松の古木に配されて古くから描かれ、「一品大夫」（一品が鶴を、大

夫が松を意味する)という画題でも親しまれてきた。観山は、画面に幼鳥と松笠(松の実)を描き加えることによって、長寿とともに子孫繁栄を寓意する吉祥図に仕立てている。

#### 4. 「Heart to Art」について

「Heart to Art」は横浜美術館と企業のコラボレーションにより、さまざまなアートを、より多くの皆様にお楽しみいただく取組みです。

横浜信用金庫は平成20年より、継続的にこの取組みへの協賛を行っており、平成24年からスタートしたカレンダーの制作は今回で3回目となります。

<参考>制作カレンダーについて

—	対象作家
平成24年横浜信用金庫カレンダー	川上 澄生 (版画)
平成25年横浜信用金庫カレンダー	長谷川 潔 (版画)
平成26年横浜信用金庫カレンダー	下村 観山 (日本画)

※全て横浜美術館所蔵の作品を採用。

#### 5. 横浜美術館「下村観山展」の開催について

横浜美術館において、下村観山の生誕140年と、下村観山の師である岡倉天心の生誕150年、没後100年を記念した「下村観山展」が下記のとおり開催されます。

- 主 催 : 横浜美術館、朝日新聞社、神奈川新聞社、t v k (テレビ神奈川)  
後 援 : 横浜市、NHK横浜放送局  
協 力 : みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社  
会 期 : 平成25年12月7日(土)～平成26年2月11日(火・祝)  
※木曜日、12月29日(日)～1月3日(金)は休館。  
※会期中、展示替えがあります。  
開館時間 : 10時00分～18時00分(入館は17時30分まで)

以上



横浜信用金庫